

つなげる
あしたの
大熊構想

大熊町
福祉の里構想

大熊町 保健福祉課

〒979-1306

福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平1717

【フリーダイヤル】 0120-26-3844(代表)

【電話】 0240-23-7196(直通)

【FAX】 0240-23-7847

《 つなげる あしたの大熊構想 》

過去・今 未来を つなげる

ふるさと大熊の記憶や思い出、風景を大切にする

人と 人をつなげる

関わるすべての人が当事者意識を持ち、協力し合う

次の 世代に つなげる

新しい大熊町を子や孫の世代にしっかりと受け継ぐ

『つなげるあしたの大熊構想』とは、これからの大熊町の、福祉政策を中心としたまちづくりの構想です。

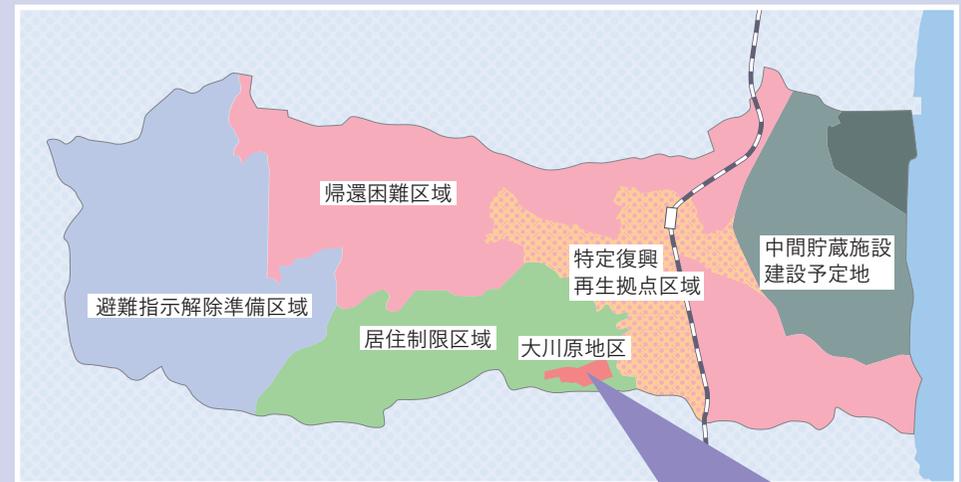
帰還予定の方、避難先でそのまま生活する方、町内で就業している方、これから移住する方、理念に共感してまちづくりに参加してくださる方、全ての方が対象となります。

わたしたちは、様々な社会課題の縮図とも言える状態でゼロから町を作っていくという、世界でも類を見ない特殊な境遇にありますが、見方を変えれば、日本はもとより世界中からあらゆる知恵と力と人材を呼び込むことができるチャンスでもあります。

年齢・境遇に関わらず、すべての人が安心して、生きがいを感じながら暮らせる町を目指し、この構想の実現に向けて進んでいく所存です。

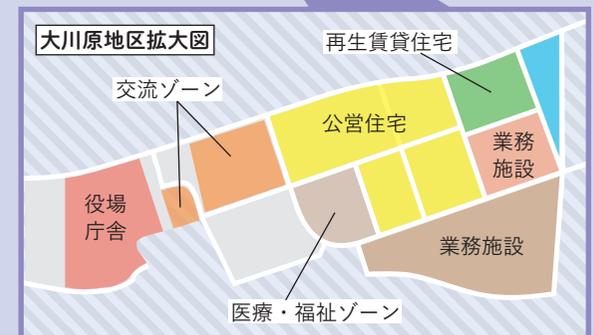
大熊町長 渡辺利綱

避難指示解除状況・今後の方針



避難指示解除 目標スケジュール

- 2019 大川原・中屋敷
- 2020 大野駅周辺
- 2022 特定復興再生拠点



● 新庁舎完成と大川原地区整備

2019年に大川原地区・中屋敷地区の避難指示解除予定。同年春には大川原地区に建設中の新庁舎が完成し、町内での役場業務を再開します。新庁舎を中心に周辺を復興の拠点として整備します。

● 基本方針

住民全員が活躍すること、外部人材を増やすことが必要不可欠。

視点 1・ふるさととしての大熊

居住するにせよ、訪問するにせよ、「帰れるふるさとがある」ということがまず何よりも大切です。変わってしまった風景もありますが、変わらない風景もあります。ふるさとを感じる風景を守ることは、過去の大熊と現在・未来の大熊をつなぐことでもあります。

展開施策案

- 里山、古民家、農地、水等原風景の再生
- 安心して暮らせる介護・福祉施設の整備
- ICTを活用した家族とのコミュニケーションシステム
- 高齢者の就労参加機会作り
- たまに帰れる宿泊施設、立ち寄れる集会施設の整備

視点 2・ともにつくる大熊

新しい大熊のまちづくりは少数の住民によってスタートします。サービスを提供する側と受ける側が完全に分かれるのではなく、それぞれができることをやる、互いに助け合う町を目指します。高齢者、障がい者、様々な困難な状況にある方、誰もが生きがいを感じながら暮らせる環境をつくります。

展開施策案

- 高齢者・障がい者が学べる・働けるしくみ
- 仕事付き高齢者住宅
- 高齢者が子育てに関わるしくみ
- 先端的な福祉・まちづくり政策により外部人材を集める
- 全町民が役割・居場所を持つ
- 全町民による来客のおもてなし

担い手不足の
解消に向けた
重要なポイント

視点 3・次世代へつなぐ大熊

世界的にも珍しい困難な状況を逆手にとり、内外から多様な知恵と力による協力を募り、住む人だけでなく通う人を含めて、外部の若い世代に積極的に関わってもらおうようつとめます。また、将来的には子育て世代が安心して暮らすための支援体制を、施設・仕組みの両面から整えていきます。

展開施策案

- 子育て施設としくみの整備
- 高齢者が子育てに関わるしくみ
- まちづくりに参加する外部人材が交流する場 (住民との交流・外部人材同士の交流)
- 移住希望者を受け入れる体制づくり

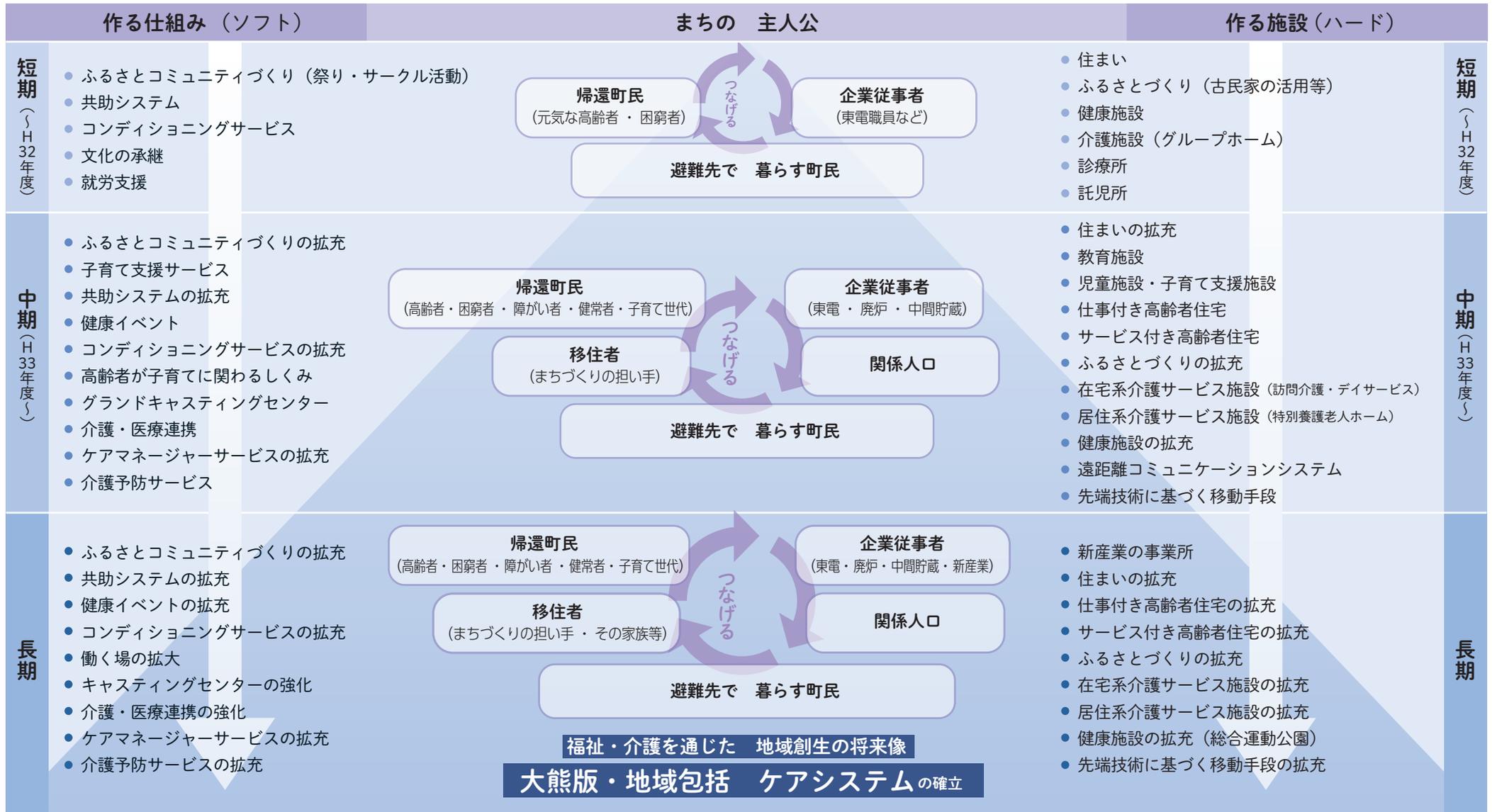
福祉政策 つなげて・つくる 大熊版・地域包括ケアシステム

- 基本方針**
- 1 福祉で住民を守るのではなく、新たな福祉を住民とつくる。
 - 2 できるだけ、自分たちのことは自分でする生活
 - 3 できないことが増えるたびに、活躍の場面が生まれる社会

福祉・介護を通じた地域創生

「地域包括ケアシステム」とは？

厚労働省が2025年を目途に構築を推進する、高齢化社会に対応した福祉政策。高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進するもの。各地域の特性に応じて作り上げていくべきとされています。



福祉・介護を通じた 地域創生の将来像

大熊版・地域包括 ケアシステムの確立



① 健康

何歳になっても健康でいたい
コンディショニングセンター、総合運動公園
の再整備による健康増進・介護予防



② やりがい

やりがいをもっていきたい
シニアの持つ技術を生かす人材センター。
例：学童で編み物を教えるなど。



⑤ ふるさと

人生の終盤をふるさとで安心して過ごしたい
離れて暮らす家族とのコミュニケーションを
情報通信技術で可能にする



⑥ 障がい者

障害があっても体が動かなくなっても働きたい
自分の動ける範囲、できる範囲でやりがい
を持って働く



③ 町民相談

まちを一緒につくっていきたい
なんでも町民相談センターで、将来の町の
姿について語る



④ 子育て

子どもたちの未来を地域で支えたい
子育て支援施設で、子どもと親が集い、互
いに協力して子育てをする



⑦ 自分のことは自分で

できるかぎり自分のことは自分でしたい
福祉施設に住みながら、仕事をする。生き
がいをもちつづける



⑧ 最先端の認知症予防

最先端の認知症予防を受けたい
VR等を活用した最先端を行くりハビリやアク
ティビティ

構想の実行に向けた課題

担い手（人材・法人）がない

人口規模が少ないため事業性が小さく、福祉・医療施設の経営が困難である。

対応策

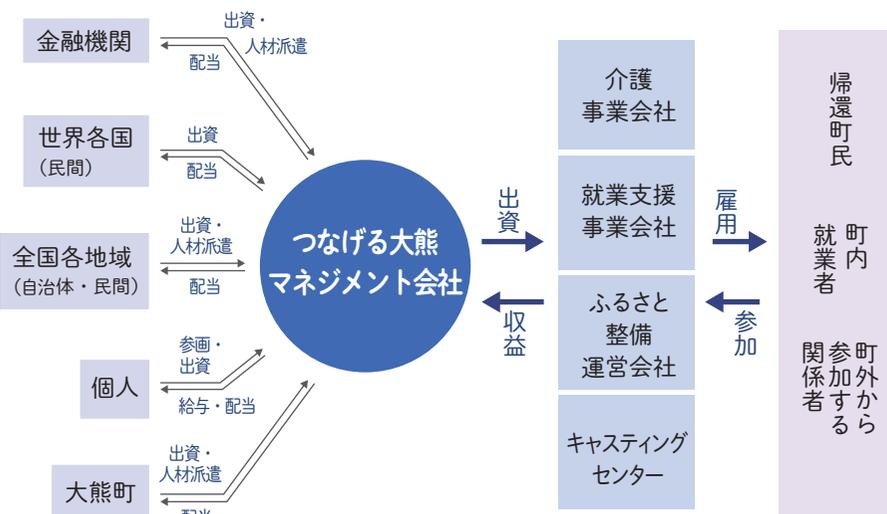
- 1 町民全員が「できることをやる」
- 2 外部から人材・法人・資本を呼び込む

町民全員が「やってもらう側」だけでなく「やる側」となって行動する。それだけでは足りない部分に関しては、先端的な福祉・まちづくりのビジョンを掲げることにより、外部からの人材・資本を集める。

体制案

政策を実行する「目的別会社」と、それらを統率する「マネジメント会社」を設立し、不変のビジョンに基づいて、臨機応変に行動する体制をつくる計画。

目的別会社を設立してプロジェクトを実行する。目的別会社は、地域の高齢者、障害者を積極的に雇用し、社会参画を促すことを目指す。



参加のイメージ

帰還町民（元気な高齢者）

料理の趣味を活かして、介護事業会社と契約し、グループホームで料理教室を開催

DIYの趣味を活かして、ふるさと整備運営会社と契約し、古民家修復を手伝う

帰還町民（障がい者）

就業支援事業会社の紹介を受けて、得意な絵を活かし、町内イベントのチラシに使うイラストを作成

町内就業者

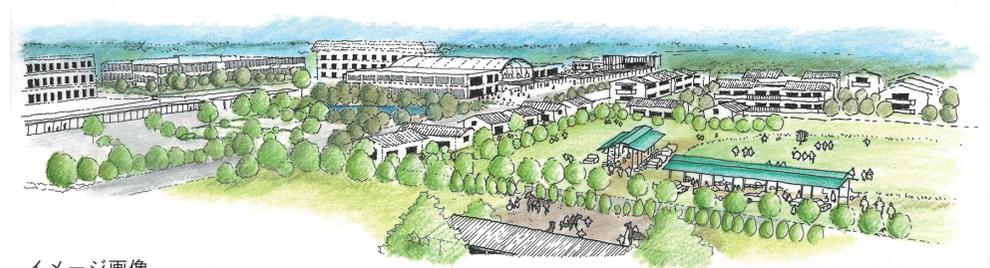
週末の時間を利用して、グランドキャストイングセンターの紹介で古民家修復作業に参加

資格取得等の支援を受けて、町内の企業に就職

外部からの参加者（関係町民）

介護事業会社に登録し、在宅介護サービスの仕事に就業

ゼロからのまちづくり。社会課題満載のこの地で活動したいと思い、まちづくり会社に就職



イメージ画像